

— 大樹町宇宙航空課ニュースレター —

Taiki Aerospace News

大樹宇宙航空サークルの学生による ペットボトルロケット製作教室が開催されました！

7月12日、大樹高校にて大樹宇宙航空サークルの学生が、YAC分団員を対象としたペットボトルロケット製作教室を開催しました。

本教室では、サークルのメンバー9名が製作の説明から打上げまでを主導して実施されました。サークルのメンバーらは参加者に分かりやすいように工夫しながら説明し、ロケットが発射した際には、参加者からは歓声の声が上がっていました。



ペットボトルロケットはなぜ安定して飛ぶの？！～今日のなんちゃら雑学～

秘密は後ろの「フィン」にあるんだよ！！ 風見鶏を思い浮かべてみてほしいんだけど、風が当たると軸より後ろの尾羽が押されて、風上を向くように回転するんだ！ ペットボトルロケットも同じ原理で、ロケットが傾くとフィンに空気が斜めに当たり、重心より後ろにあるフィンが押されて、傾きを戻す方向へ機体を回転させてくれ、まっすぐ飛ばしているんだよ～



JAXA 大気球実験B26-02が実施されました！

6月14日、JAXAは大樹航空宇宙実験場から気球VLBI実験を目的として、大型気球（B26-02号機）を放球しました。気球は直径約42メートルで1時間33分後に高度約26キロメートルまで上昇し、実験終了後は太平洋上で安全に回収されました。

今回の実験では、将来、気球に電波望遠鏡を搭載して宇宙の天体をより高い精度で観測するための技術検証が行われました。地上の電波望遠鏡と気球を組み合わせ、観測する「VLBI（超長基線電波干渉法）」の実現に向け、観測機器の安定度や正確な位置を測定する技術を確認しています。

今後、取得したデータを詳しく解析し、今後研究が進められていきます。

気球VLBIとは、成層圏を飛ぶ気球に電波望遠鏡を搭載し、地上の望遠鏡と組み合わせ、宇宙を観測する技術です。離れた望遠鏡の観測データを重ね合わせることで、地球直径に相当するほどの巨大な望遠鏡を実現できます。成層圏は大気の影響が少ないため、より鮮明な観測が可能となります。



©JAXA

北海道宇宙サミット2026の開催決定！

北海道宇宙サミット2026が、10月14日から16日の3日間で開催されます。

6回目となる今回のテーマは、「**北海道が創る宇宙産業の未来 ～宇宙輸送の新たなGatewayの始動～**」と設定されました。

本年は以下のような内容の講演やトークセッション、ワークショップが実施される予定です。

- ・ LC1完成に至るまでの大樹町の宇宙のまちづくりの歩み・大樹町で進む宇宙産業による地域活性化の姿
- ・ HOSPOでの打上げを検討する国内外企業の事業展望
- ・ 高頻度打上げに向けた国際宇宙港連携の現在地
- ・ 宇宙空間の利活用や周辺産業への広がり、宇宙人材の育成

8月上旬に一般申込みが開始予定となっており、オンライン参加も可能ですので、興味がありましたら、ぜひお申し込みください。



公式HPはこちら



コラム H3ロケットの形態について

6月12日、JAXAのロケット**H3-30S**が種子島宇宙センターから打上げられ、無事成功しました。H3ロケットはH-IIAロケットの後継機で、H-IIAと比較して打上げまでの迅速性、高い成功率、低価格の3つを目指して開発されました。

H3ロケットには、主に**3つの形態**があり、ロケットエンジンの基数、固体燃料ブースターの本数、フェアリングのサイズによって表記が変わります。

H3-abc (例) H3-30S H3-22S H3-24W

- a** : 第一段メインエンジン (LE9) 基数
→ **2基** or **3基**
- b** : 固体ロケットブースター (SRB) 本数
→ **0本** or **2本** or **4本**
- c** : フェアリングのサイズ
→ **W** (wide) or **L** (long) or **S** (short)

H3-30S H3-22S H3-24W



©JAXA